

Study on the Phenomenon of Gei Expressing “Displace” meaning and other Similar Constructions

ZHANG Zhongfei

Abstract

This paper analyzed “gei, wei, ti”, the commonly used prepositions, from the perspective of semantics, syntax and pragmatics. “Gei, wei, ti” are object prepositions, all of which may introduce the movement behavior of the objects, and their meanings are very similar; therefore, misuses of these three prepositions are common. This article conducted an exhaustive analysis from the syntax and the semantic angle of this group of prepositions. The paper investigated “gei, wei, ti” from the syntax and the semantic angle and mainly from the core verbs and the preposition objects that match after these three prepositions. The article also analyzed the three prepositions from the aspect of the language style, the frequency of usage, emotional coloring and stylistic effects, and the linguistic environment. In the final part of the paper, we discussed the exchange usage of the three prepositions.

「代替」を表す“给”構文とその類似文型

張 仲 霏

0 はじめ

中国語は「授与」の意を表す時は“给”を用いる。朱德熙（1979：152）は次のように「授与」の意味を記述した。1)「動作主」(A)と「与格」(B)が同時に存在する。2)「動作主」(A)が与え,「与格」(B)が受け取る「対象物」(C)がある。3) Aは能動的にCをAからBに移転させる。朱は「授与」の概念を用いて典型的な“给”構文を記述した。

“给”構文における最も典型的な表現式は“NPS + V + 给 + NP1 + NP2”である。NPSは「動作主」(授与者)であり, NP1は「与格」(受け手)であり, NP2は「対象物」(授与物)である。この表現式は「動作主が自発的に授与物(具体的なものであろうと抽象的なものであろうとにかかわらず)を「与格」の位置(授与物の移動終点)に渡す」ということである。

次の場合は, “给”構文に「あいまい性」が見られる。

(1) 我给他沏了一杯茶。

(私は彼にお茶を入れた。)

まず、この文には「私が誰かに何かをしてやる」という命題内容と、「私がお茶を入れる」という命題内容、「お茶が一杯ある」という命題内容と「お茶が彼に供される」という命題内容、そして、「私が彼にお茶をいれてやる」という命題内容が存在する。(1)の文の意味は前述のすべての命題内容を含まなければならない。以上の命題を含めて、論理式で表示すると次のようになる。

～二

(1') 給' {我, 他, 沏' (我, 茶) & 有' (茶, 一杯) & 到' (一杯, 他)}

スル ～ガ ～ニ

～コトヲ

この論理式は「給' {我, 他, 沏' (我, 茶) & 有' (茶, 一杯) & 到' (一杯, 他)}」という一個の複合命題である。

(1)の文にはもうひとつの意味がある。論理式で表示すると次のようになる。

～ニカワッテ

(1'') 給' {我, 他, 沏' (我, 茶) & 有' (茶, 一杯) & 到' (一杯, ϕ)}

スル ～ガ ～ニカワッテ

～コトヲ

この式は「給' {我, 他, 沏' (我, 茶) & 有' (茶, 一杯) & 到' (一杯, ϕ)}」という一個の複合命題である。この文の二つ論理式は意味のちがいを示しているが、それは第三項の三番目の命題に現れている。その違いは前者が「お茶が彼のところに至る」、後者が「お茶が他人のところに至る」である。したがって、問題は“他”の果たす意味役割の違いにある。

もう一つ例を挙げよう。

(2) 我给他寄了封信。

(私は彼に手紙を送った。)

まず、この文も「私が誰かに何かをしてやる」という命題内容、「私は手紙を送る」という命題内容、「手紙が彼に着く」という命題内容を含む。文(2)の意味は前述のすべての命題内容を含まなければならない。それをまとめて、論理式で表示すると次のようになる。

～ニ

(2') 给' {我, 他, 寄' (我, 信) & 到' (信, 他)}

スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

文(2)にはもうひとつの意味がある。論理式を表示すると次のようになる。

～ニカワッテ

(2'') 给' {我, 他, 寄' (我, 信) & 到' (信, ϕ)}

スル ～ガ ～ニカワッテ ～コトヲ

この文には「给' {我, 他, 寄' (我, 信) & 到' (信, ϕ)}」という一つ複合命題がある。(2') と (2'') の違いは第三項の二番目の命題にある。一つは「手紙が彼のところに至る」、もう一つは「手紙が他人のところに至る」である。

朱徳熙(1982: 181—182)によると, “给”の機能は「与格を導く」ということで, “把”の機能は「受け手を導く」ということである。しかしながら, ある文では“给”と“把”を交換できる。例えば, “我给(把)电视机修好了”(私はテレビを直しました。)という文において“电视机”は形式上「与格」であるが, 意味上「受け手」である。したがって, 文に「あいまい性」が発生すると考えられる。例えば,

(3) 警察给他抓走了。(4) 小偷儿给他捆起来了。

(3) と (4) の文における“给”は“被”あるいは“把”の両方の意味を持つと理解してよい。しかし、すべての“给”構文に「あいまい性」があるとは限らない。例えば、

(5) 温都太太到底给早饭端来了，马老先生只喝了一碗茶。((老舍《二马》))

(温都さんはやっと朝ご飯を持って来たが、馬先生は一杯のお茶しか飲まなかった。)

朱徳熙によると，“给”構文に「あいまい性」があるかどうかを判断する基準は“给”が導く対象が「受け手」であるかどうか，すなわち「授与の対象」であるかどうかということである。

「受け手」と関係がある動詞は三種類で，1)「授受」類動詞，すなわち“买”類，2)「制作」類動詞，すなわち“写”類，3)「表現」類動詞，すなわち“说”と“礼节”類である。以下，“给”がそれぞれの動詞と一緒に使われると，文の意味がどうなるかを検討しよう。

1. “给”が動詞とともに使われる情況

1.1 “给”が「渡す」類動詞とともに使われる場合

「渡す」類動詞とは「ある物あるいは情報を授受する」意を含む動詞である。動詞の意味上のちがいに基づいて，「渡す」類動詞はさらに「授与」と「取得」という二類に分けられる。

徐峰（2002：78—87）は，現代中国語においてよく見られる「渡す」類動詞は次のようなものであるとした。動詞の後ろの（ ）内の数字は辞書（現代漢語辞典）の意味解釈の番号を表す。“颁发，帮，帮助，保荐，拨（2），补（2），补偿，补充，补发，补贴，补助，偿还，呈递，呈献，酬谢，出口，出卖，出让，出售，出租，传（1），传递，赐，赐予，

搭 (4), 贷 (2), 倒贴, 递, 递交, 递送, 兜售, 兜销, 发 (1), 发包, 发放, 发还, 发售, 放 (1), 放 (2), 分发, 分配 (1), 奉还, 奉送, 奉献, 付, 付与, 赋予, 告发, 割让, 给, 给以, 给予, 供给, 供应, 贡献, 管 (3), 规定, 过继, 还 (1), 还 (2), 换 (1), 回 (3), 回敬, 寄予 (1), 寄予 (2), 嫁 (1), 检举, 荐举, 奖, 奖励, 交 (1), 交代 (1), 交还, 交纳, 缴 (2), 缴纳, 接济, 介绍 (1), 借 (2), 进贡, 敬, 敬献, 救济, 举报, 举荐, 捐, 捐献, 捐赠, 开 (9), 控告, 馈赠, 卖 (1), 赔 (1), 赔偿, 配备 (1), 批 (1), 倾注 (2), 倾销, 让 (1), 让 (2), 让 (3), 赏, 赏赐, 上缴, 赊, 授予, 输, 输出, 输送, 送 (1), 送 (2), 送还, 摊 (3), 提交, 调拨, 贴 (3), 贴补 (1), 通融 (2), 投放 (2), 投放 (3), 推荐, 退 (4), 退还, 托付, 喂 (1), 喂 (2), 下 (3), 献 (1), 许, 移交, 优待, 优惠, 匀 (3), 赞助, 赠送, 招待, 照顾 (2), 支付, 支援, 周济, 转嫁 (2), 转交, 转让, 转送 (1), 转送 (2), 转赠, 转租, 追加, 追赠, 租 (2), 租借 (2), 租赁 (2)”。

「授与」類動詞にはさらにもう一類動詞がある, つまり「情報授与動詞」である (张伯江 1999)。「情報授与」類動詞には次のようなものがある。“报告, 答复, 告诉, 回答, 交代, 教, 提醒, 通知, 托, 委托, 责怪, 问, 盘问, 请教, 请示, 求, 审问, 考, 测验”などである。これらの動詞は物理空間における「授与」過程を発話の空間に投射する動詞である。「授与物」は具体的な事物ではないが, 「授与」類動詞と考えてよい。

よく見られる「授与」類動詞は次のようなものである。“拿, 倒 (倒水), 带, 搬, 抱 (抱柴火), 够 (够苹果), 夹 (夹菜), 拉 (拉货), 抬, 租, 买, 偷, 要, 抢, 夺, 领, 捡, 雇, 占, 挣, 打 (打饭), 留, 办 (办执照), 采, 采购, 采集, 插, 穿 (穿项链), 开 (开发票), 吹 (吹起球), 剩, 收, 数 (数 200 块钱给他), 去 (去信)”などである。

1.1.1 “给”が「授与」類動詞とともに使われる場合

“给”と「授与」類動詞を一緒に使う場合、「動作が実行される前には、動作主 NPS と目的語 NP2 の間に所有関係がある。そして、動作が実行された後、前の所有関係は消えてしまう。したがって、NP2 が表している事物は NP1 が表している事物に渡る。」という意味を表す。次の例を見られたい。

(6) 你给他打个电话。

この文は論理式で表すと、次のようになる。

～ニ

(6') 给' {你, 他, 打' (你, 电话) & 到' (电话, 他)}

スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

この論理式は「あなたが彼に…する」(给' {你, 他, …}) と、「あなたが電話をカケル」(打' (你, 电话)) と「電話が彼のところにつながる」(到' (电话,)) という命題を含む。

～ニカワッテ

(6'') 给' {你, 他, 打' (你, 电话) & 到' (电话, 别人)}

スル ～ガ ～ニカワッテ ～コトヲ

この論理式は「あなたが彼に…する」(给' {你, 他, …}) と、「あなたが電話をカケル」(打' (你, 电话)) と「電話が他人のところにつながる」(到' (电话, 别人)) の意味を含む。ここで、(6') と (6'') の違いは連言の後ろの部分である。つまり、「電話が彼のところにつながる」と「電話が他人のところにつながる」である。この文に「あいまい性」がある原因は朱德熙の記述から理解し得る。すなわち、“给”が導く対象が「与格」か「受益格」であるかのちがいによって、この文に「あいまい性」があると考えることができる。

もう一つ例をあげて論理式で示そう。

(7) 我给他汇了钱。

～ニ

(7') 给' {我, 他, 汇' (我, 钱) & 到' (钱, 他)}

スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

この論理式の意味は「私は彼に私がお金を振り込み、かつお金が彼のところに至ることをする」ということである。(7) も二つの意味に解釈することができる。つまり、

～ニカワッテ

(7'') 给' {我, 他, 汇' (我, 钱) & 到' (钱, 别人)}

スル ～ガ ～ニカワッテ ～コトヲ

この論理式の意味は「私は彼にかわって私がお金を振り込み、かつお金が他人のところに至ることをする」ということである。

以上の例から見ると、“他”は「与格」としても「受益格」としても理解することができる。しかし、母語が中国語である人はこのような文は一般的に、“给”は「与格」を導くと考える。つまり、“他”は「与格」である。したがって、“给”が「授与類」動詞とともに使われる場合には「代替」の意味ではなく、「授与」の意味を表すということである。

1.1.2 “给”が「取得」類動詞とともに使われる場合

“给”が「取得」類動詞とともに使われる場合は「授与」類動詞とともに使われる場合よりもっと複雑である。例えば、つぎの(8)は(8')のように表記される。

(8) 我给他买了一件衣服。

～ニ

(8') 给' {我, 他, 买' (我, 一件衣服) & 到' (衣服, 他)}

スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

この表記の中で“給’ {我, 他, ……}”は「私は彼に……あげる」を表し, “买’ (我, 一件衣服)”は「私が一枚の服を買う」を表し, “到’ (衣服, 他)”は「服が彼のところにいたる」を表している。この文にはもう一つ解釈がある。

～ニカワッテ

(8”) 给’ {我, 他, 买’ (我, 一件衣服) & 到’ (衣服, 别人)}

スル ～ガ ～ニカワッテ ～コトヲ

前の解釈との違いは最後の項にある。つまり, 一つの意味は「服が彼のところにいたる」, もう一つの意味は「服が他人のところにいたる」である。ここで, “項”の概念について説明しておこう。“項”は広い範囲で“項構造”として論じられるのでここでも“項構造”について述べる。“項構造”とは主に第一階の述語論理 (first-order predicate logic) で用いる基本的データ表現「項」で表現されるデータ構造のことである。「項」は次のように定義される。

「項 (term)」とは, 次の形を取るデータ構造である。

- (1) 定数, 数, 変数はいずれも項である。これらを「単項」とよぶことができる。
- (2) f を n 引数の関数名とし, $t_1, t_2, \dots, t_n$ が項であるならば, $f(t_1, t_2, \dots, t_n)$ も項である。特にこのような項を複合項と呼ぶ。(『言語の数理』: 66)」のように定義されている。

(8) の文にはもう一つの解釈がある。

～ニカワッテ

(8”) 给’ {我, 他, 买’ (我, 一件衣服) & 到’ (衣服, 别人)}

スル ～ガ ～ニカワッテ ～コトヲ

ここで“到”（衣服，別人）は「服は他人のところにいたる」を表している。この解釈では前の解釈との違いが第二項のところに現れている。換言すれば，この表記における“给”は「～に代わって」という「代替」を表すことである。

この“给”は「取得」類動詞とともに使われる場合，より複雑になる。実は，このような現象がおこるのは「取得」という動詞の意味特徴と関係がある。一般的に「取得」とは「あるものを私有する」ということである。「取得」という動作は文が「自分の責任或いは義務」を表す時，“给”の「代替」という意味があきらかになる。

1.2 “给”が「製作」類動詞とともに使われる場合

「製作」類動詞とは，「製作」という意味特徴がある動詞である。目的語は「製作」を経て，完成されたものである。よく見られる「製作」類動詞は“织，刻，卸，缝，补，炒，写”などである。

(9) 我给他织了一件毛衣。

この文は「私は彼に……」と「私がセータを編んだ」と「彼がセータをもらった」の三つ命題内容を含んでいる。これを考慮して述語論理表記すると次のようになる。

～ニ

(9') 给' {我, 他, 织' (我, 一件毛衣) & 到' (一件毛衣, 他)}

スル ～ガ ～ニ

～コトヲ

ここでは“给' {我, 他, ……}”が「私は彼に……」を，“织' (我, 一件毛衣)”が「私がセータを編んだ」を，“到' (一件毛衣, 他)”が「彼がセータをもらった」という意味を表している。

この文の別の意味も次のような述語論理表記で表すことができる。

～ニ

(9”) 给’ {我, 他, 织’ (我, 一件毛衣) & 到’ (一件毛衣, 别人)}

スル ～ガ ～ニ ～コトヲ

この文が「私が彼のかわりに……」と「私がセータを編んだ」と「彼がセータをもらった」の三つの命題内容を含んでいれば、次の述語論理表記ができる。

～ニカワッテ

(9”) 给’ {我, 他, 织’ (我, 一件毛衣) & 到’ (一件毛衣, 他)}

スル ～ガ ～ニカワッテ ～コトヲ

ここでは“给”が「代替」という意味になっている。

このような動詞には「製作」という意味特徴があり、他動詞である。結合価の角度から見ると、以前分析した三類の動詞はいずれも三価動詞である、つまり、最高でも三つの名詞性成分としか共起し得ない。更に、以上の例文における“给+NP1”はすべて述語動詞の前に置かれているが、“给+NP1”を動詞の後ろに移動しても、意味は変わらない。例えば、

我给他织了一件毛衣。→我织了一件毛衣给他。

我给他做了一顿饭。→我做了一顿饭给他。

我给他写了一封信。→我写了一封信给他。

もう一つの場合がある。それは“给”が動詞の直後に来て、“V 给”という構造になることである。ここでは、“给”が直接に「与格」を導くことから、あきらかに「授与」という意味を表している。例えば、

(10) 这匹大宛名驹，是林平之的外婆在洛阳重价觅来，两年前他十七岁时送给他的。(《笑傲江湖》)

(この大宛の名馬は林平之のお婆さんが洛陽で高値で買い付けて、二年前、彼が17歳の時に彼に贈ったのだ。)

(11) 别人虽说心里舍不得，交给王喜后也都走开了，只有有庆还在那里

站着，咬着嘴唇一动不动。（《活着》）

（他の人はそれを捨てるのが惜しかったか，王喜に渡すと去ってしまった。ただ有庆だけがそこに立ちすくみ，唇を噛みしめ，少しも動かなかった。）

(12) 我还打算把报纸为你保留一份集起来寄给你。（《家》）

（私は新聞を保管し，まとめてあなたに送るつもりだったのに。）

ここで注意すべきことは，このような“V 给”に入る動詞はすべて「授与」類動詞であることである。しかし，「取得」類動詞と「製作」類動詞は“V 给”に入ることができない。例を見られたい。

(13) 我给他占了一个座位。→*我占给他一个座位。

(14) 我给他织了一件毛衣。→*我织给他一件毛衣。

(13) と (14) の文は“V 给”のような構造に変更すると，成立し得ない。

1.3 “给”が「表現」類動詞とともに使われる場合

“NPS + 给 + NP1 + V + NP2”という構造における“NPS”は人を指す名詞あるいは代名詞であり，“NP1”は人または人ではないものを指すことができる。ここで“给”は「動作の対象」を導くので，動詞は当然「方向性のある動作」である。この構造に入る動詞を「表現」類動詞と呼ぶ。また，「表現」動詞はさらに「話す」類と「礼儀」類という二類に分けられる。

1.3.1 「話す」類動詞

よく見られる「話す」類動詞は“讲，说，谈，讲解，说明，叙述，交待，介绍（情况），反映，解释，报告，暗示，表示，描述，讲述”などである。これらの動詞も三価動詞である。動詞が表している「言語動作

性」が強い、例えば、“讲，说，谈”などの動詞は声を出すという方法でコミュニケーションを行う。また，動詞が表している「言語動作性」が弱く，言語によって相手に情報は伝わるが，話者の目的或いは意図が抽象的である場合がある。例えば，“透露，介绍，反映，解释”などである。次の例を見てみよう。

(15) 我给他讲了一下这个问题。

この文は「私は彼になにかをする」と「私がこの問題を説明した」と「(説明)の結果が彼のところにいたる」という三つの命題内容を含んでいる。

“讲”という動詞は「声を出す」という方法により，意思疎通している。

この文はもう一つの意味に解釈することもできる。つまり，「私が彼の代わりになにかをする」と「私がこの問題を説明した」と「この問題が他人のところにいたる」という三つの命題内容である。ここでは，“给”が「代替」を表し，“替”と交換できることがわかる。

以上の例から，このような動詞を持つ文は，「あいまい性」を持つということが分かる。例えば，“讲”が指している対象は“他”あるいは“别人”である。

1.3.2 「礼儀」類動詞

よく見られる「礼儀」類動詞は次のようなものである。例えば，“敬礼，行礼，点头，使（眼色），挤（眼睛），磕头，下跪，打招呼，敬（酒），鞠躬”などがある。このような動詞は多くが「離合詞」であり，表している動作はほとんど「声を出す」という方法ではなく，「姿勢」，「姿態」あるいは「目つき」で意図を伝達することである。このような手段を表す語は「姿態語」と呼ばれる。次の例を見てみよう。

(16) 我给他鞠了个躬。

この文は「私は彼になにかをする」と「私がお辞儀をした」と「お辞儀が彼にいたる」という三つの命題内容を含んでいる。

この文はもう一つの意味に解釈することもできる。つまり、「私は彼にかわってなにかをする」と「私がお辞儀をする」と「お辞儀が彼にいたる」という三つの命題内容を含んでいる。したがって，“给”は「代替」を表し，“替”と交換できる。

以上の「あいまい性」がある文に対する分析によると、人々の文に対する理解は、ある傾向を有することが分かる。つまり、一般的に，“给”が導く対象は「授与の対象（与格）」である，「代替の対象」ではない。しかしながら，「取得」類動詞が表しているのは常に「自分の責任或いは義務」であり，“给”が導く対象は「代替の対象」である。例えば“领（工资），取（钱）”など。

以上はすべて“给”が「授与の対象」を導くか、或いは「代替の対象」を導くという角度からの分析である。つまり，“给”が場合によって、別の単語（“替”，“为”）に交換することができるということである。“给”と“替”，“为”は類義語であるが，勝手に交換できるとは限らない。この三つの前置詞の違いについて，以下詳しく分析しよう。

2 “给”，“为”，“替”の意味の解釈

“给”，“为”，“替”の意味は，吕叔湘の《现代汉语八百词》（1999），刘月华の《实用现代汉语语法》（2001 改定版），侯学超の《现代汉语虚词词典》（1998），《现代汉语常用虚词词典》（1992）そして傅雨贤，周小兵の《现代汉语介词研究》（1997）によると，それぞれの解釈に若干違いがあるが，大きな違いはないと考えられる。次の表を見られたい。

表 2 “给”

	吕叔湘	曲阜师大	傅玉贤, 周小兵等	侯学超	刘月华等
1.	引进交付, 传递的接受者。	引进动作服务的对象, 大致相当于“为”或“替”。	引进受物者。	介绍事物的接受者。	表示物体的接受者或引进动作行为的接受者。
2.	引进动作的受益者。	引进动作, 行为的受损害者。	引进受益者。	介绍行为的承受者。	引进动作行为的施事。
3.	引进动作的受害者。	引进动作行为的承受对象, 相当于“朝”, “向”, “对”。	引进受害者。	介绍行为的施事, 被。	表示动词的承受者。
4.	“给我”加动词, 用于命令句, 有两种可能的意思: a. 同“为我”, “替我”。 b. 加强命令的语气, 表示说话人的意志。	引进动作, 行为的主动者(施事), 意思相当于“被”, “让”或“叫”。	引进动作相关者, 可与“向, 朝, 对, 跟”有选择的替换。	介绍行为的受事, 替, 为。 a. 介绍行为的受益者。 b. 介绍行为的受损者。	引进动作行为的服务对象, 也可说是受益者。
5.	朝, 向, 对	引进交付, 传递的对象。	引进施事者。		
6.	表示被动: 被	“给我(它)”加动词或动词短语, 表示说话人的意志和感情。	与“把”相关的“给”		

* 傅雨贤, 周小兵的《现代汉语介词研究》では, “替”に関する分析がないので, 表 4 に示していない。

表3 “为”

	吕叔湘	曲阜师大	侯学超	刘月华等
1.	引进动作的受益者。	引进行为的原因。	介绍服务对象：替，给。不与“而”连用。	表示服务对象
2.	表示原因，目的。可加“了，着”，“为着…”可在主语前，有停顿。	引进行为的对象或有关事物，相当于“给”或“替”。	表示原因。	表示原因。
3.	被。用于书面。为+名+所+动。	引进行为的目的。	表示目的。	表示目的或目标。
4.		引进施事者，意思跟“被”相同，多用于书面语。	介绍施事，构成被动句：被。用于书面语。	“为”在表目的时，也可用“为了”或“为着”。

表4 “替”

	吕叔湘	曲阜师大	侯学超	刘月华等
1.	为，给；跟名词组合。	引进动作，行为的对象或有关事物，相当于介词“给”或“为”。	介绍服务的对象：为，给。替+代词／名词／名词短语，用于口语。	引进服务对象，有帮助或协助某人做某事的意思。
2.				引进替代对象。
3.				引进牵涉对象。

“给”，“为”，“替”を統語機能から見ると，“给+VP”は述語動詞の後に付き，補語としてもよいし，述語動詞の前に付き，状況語としてもよ

い。しかし，“为+VP”，“替+VP”は状況語としてしか使われない。例えば，

(17) 夏经平给他送来一张能亲临现场的开幕式票。(《我是你爸爸》)

(夏経平は彼に現場で見れる開会式の切符を送ってくれた。)

(18) 若这件事派给我，我要那座碾坊。(《边城》)

(この件は私がまかされたら，その製粉所が欲しい。)

(19) の文における“给”はその後ろの目的語とともに，動詞“送”の前で状況語として使われている。“给”は“为”，“替”に交換できるが，

(19) の文における“给”は“为”，“替”に交換できない。それは“为+VP”，“替+VP”が状況語としてしか使われないからである。次に，“给”，“为”，“替”の用法を詳しく分析しよう。

2.1 “给”の意味上の役割

2.1.1 「渡す相手」を導く

「渡す相手」を導く場合，基本構造は“NPS+给+NP1(受け手)+V+NP2”である。

この構造が表しているのは物あるいは情報の移動過程である。ここでは動詞が重要な成分である。この構造に入る動詞は「授与」類動詞，「取得」類動詞と「製作」類動詞である。これについては，前の1.1の部分ですでに分析したので，ここではこれ以上論じないこととする。

2.1.2 「利益の受け手」を導く

「利益の受け手」を導く場合，基本構造は“NPS+给+NP1+V+NP2”である。

この構造はNPSがVを経て，NP1に何か利益を受けさせるという意味を表す。NP1は人を指す名詞，あるいは代名詞である。この構造に

入る動詞は意味特徴に基づいて、以下のように分けられる。

A. 「操作」類動詞を導く

「操作」類動詞は“洗（衣服）、检查（身体）、打扫、理（发）、办（事）、出（主意）、捶（背）、布置、联系、擦（玻璃、鞋）、找、做媒”などである。例えば、

(20) 我回到家里，家珍正在给我纳鞋底。（《活着》）

(21) “我给三少爷端茶来。”她垂着头回答。（《家》）

(22) “大师哥，我给你送饭来啦。”（《笑傲江湖》）

上の例文から見ると，“纳鞋底”、“端茶”と“送饭”などの動詞目的語構造における動詞はすべて他動詞であり、+ [サービス]、+ [受益] という意味特徴を持つ。この動詞の目的語は一般に人を指す名詞或いは代名詞である。

B. 「添加」類動詞を導く

よく見られる「添加」類動詞は“浇（水）、施（肥）、加（油）、上（色、漆）、涂、加、安（电话）、添、增加”などである。

(23) “马锐，给夏青倒水，冰箱里有酸梅汤。”（《我是你爸爸》）

“倒”が「添加」類動詞で，“夏青”が「受益者」である。

(24) 她（凤霞）不再看我，低着头让家珍给她穿上衣服。（《活着》）

ここでは，“穿”が「添加」類動詞で，“她”が「受益者」である。

2.1.3 「損害の受け手」を導く

「被害者」を導く場合、基本構造は“NPS + 给 + NP1（被害者） + V + NP2”である。

この構造における述語は、ほぼ「被害」を表す動詞である。動詞は「消極」的な意味を持ち，“给”の目的語は動作により損害を受ける。動詞の後には“了”或いは結果補語を伴い，“给”の前のNPSは「損害を

発生させるもの」で，“给”の後の NP1 は「損害を受けるもの」である。
例えば，

(25) 我只求他们少给少爷丢脸。(《秋》)

(26) 他倒给我添麻烦。(《秋》)

2.1.4 「“给我” + 動詞」で形成した命令文

「给我” + 動詞」で形成する命令文の基本構造は “NPS + 给 + NP1 + V” である。

この構造における “给” の後の NP1 は話者本人であり，常に “我” である。“给 + NP1” は話者の意思を表し，「NPS が必ず NP1 の言うとおりにする」という意味を表す。このような文は文脈によって二つの意味を表す。

A. “为我，替我，帮我” と同じで，「話者の請求」を表す。例えば，

(27) 你给我谢谢你们太太，我就在你们这儿吃早饭。(《春》)

この文は「あなたは私に何かをする」と「あなたはお礼を言う」と「お礼は奥さんのところに至る」という三つの命題内容を含んでいる。

この文は「私はあなたに頼む」という意味，つまり，「請求」を表す。

(28) 你给我倒杯茶来。(《家》)

この文は「あなたは私になにかをする」と「あなたがお茶を入れる」と「お茶が私のところに至る」という三つの命題内容を含んでいる。

この文も「私はあなたに頼む」という意味で，「請求」を表している。

B. 命令口調を表し，「話者の意志」を表す。例えば，

(29) 我对家珍吼道：“你给我滚回去！”(《活着》)

(30) 快把衣服给我换了！(《现代汉语八百词》)

ここで注意すべきことは，これらの文の “我” は一般的な “我” ではなく，動作は必ずしも動作主に向かうとは限らないことである。例えば，

封建時代に、ある人が罰を犯し、罰を受ける時、目上の人“你给我跪下”と命令をする。しかしながら、ここの“跪”の実際の対象は“我”ではなく、“祖先”のことを指すと考えられる。例(30)も、“换衣服”は「私が服を着替える」のではない。したがって、ここの“我”は通常よく用いられる“我”とは異なっている。

この二類の文は、“给+NP1”をなくしても、文の意味がほとんど変わらないが、話者の意図が失われる。A類の文は“给+NP1”を削除すると、話者の「請求」という意味もなくなってしまう。更に、「聞き手」が「命令される」という感覚を持ち、不愉快に感じる恐れがある。B類の文は“给+NP1”を取ると、命令的ニュアンスがやや残っているが、「話し手」の強い「命令する」という意図は消失している。したがって、これらの文における“给+NP1”は「話者の権威感」を増す役割があると考えられる。

2.1.5 「動作に関係する事物」を導く

「動作に関係する事物」を導く場合、“向，朝，对，跟”と交換できる。例えば，

(31) 恩人，我给你叩头啦。(《兄弟》)

この文における動詞の表す動作の方向は“你”であるから，“向”と交換できる。

(32) 岳父大人，女婿给你请个早安。(《活着》)

この文における動詞の動作の方向は“岳父大人”であるから，“向”と交換できる。

2.1.6 「動作主」を導く

「動作主」を導く場合、文の基本構造は“NPS+给+NP1+V”である。

ここにおける“给”は「受け身」を表す。動詞の後の成分は補語である。例えば、

(33) 方鸿渐又给辛楣罚了半杯酒。(《围城》)

この文は「方鸿渐はだれかに何かをされる」と「辛楣がお酒を罰杯する」と「方鸿渐はお酒を飲む」という三つの命題内容を含んでいる。この文における“给”は“被”を代替していると考えることができる。つまり、“方鸿渐又被辛楣罚了半杯酒。”になる。

2.2 “为”の意味上の役割

“为”という単語は意味が多様である。

“为”には動詞と前置詞という二つ品詞がある。動詞として使われる場合、第二声で発音され、“作”と“做”の意味である。例えば、“事在人为”(「事の成否は人のやり方いかんで決まる」)、“敢作敢为”(「恐れずに思い切って事を行う」)である。前置詞として用いられると、第四声で発音する。前置詞の“为”は多くの機能を有する。次に、“为”の意味を詳しく分析しよう。

2.2.1 「利益の受け手」を導く

「利益の受け手」を導く場合、基本構造は“NPS + 为 + NP1 + V”である。この構造におけるNPSは、NP1のために「あるサービス」を提供する。“为”の後に物質名詞は付かず、NP1には人を指す名詞あるいは代名詞が用いられる。また、ある単位や団体名称などの固有名詞でもNP1となれる。この構造に入る動詞の範囲は広く、“给”の研究で、すでに分析した「授与」類動詞、「取得」類動詞、「言語行為」類動詞、「身体表情」類動詞、「操作」類動詞などは皆この構造に生起し得る。例えば、

(34) 我娘说这话不只是为我开脱。(《活着》)

(35) 俗话说得好，为朋友两肋插刀，为女人插朋友两刀。(《兄弟》)

(36) 小王最近总为妹妹寄生活费。

上の例から見ると、(34)の文における動詞は「言語行為」類動詞であり、(35)の文における動詞は「操作」類動詞である、また(36)における動詞は「授与」類動詞である。前に“给”について分析した時に、区別した「授与」類動詞、「製作」類動詞などは「授与、渡す対象」を導くことができるだけでなく、「奉仕する対象」も導くこともできる。しかしながら、ここで現れた“NPS + 为 + NP1 + V”という“为”構文は「奉仕する対象」しか導くことができない。

2.2.2 「関心を持つ対象」を導く

「関心を持つ対象」を導く場合、基本構造は“NPS + 为 + NP1 + VP”である。この構造における“为 + NP1”は状況語として使われ、NPSは動作主であり、NP1は「関心を持つ対象」である。NPSとNP1は一般的に人を指す名詞、あるいは代名詞である。NP1はVPとの間に直接の関係を持たない。この構造に入る動詞は多くが「心理活動」類動詞である。例えば、

(37) 请你千万要息怒，我这是一片好意，我是在为你着想。(《兄弟》)

(38) 他们对林红指指点点，多少人为她惋惜。(《兄弟》)

2.2.3 「動作発生の原因」を導く

「動作発生の原因」を導く場合、基本構造は“NPS + 为 + NP1 + VP”である。この構造におけるNPSは動作主で、人を指す名詞や代名詞あるいはある単位や固有名詞である。ほとんどの動詞はこの構造に入ることができる。例えば、

(39) 他可能为这事迟疑不决。(《围城》)

(40) 方鸿渐整天为这事惶恐不安，向苏小姐谢了又谢。(《围城》)

2.2.4 「動作発生の目的」を導く

「動作発生の目的」を導く場合，基本構造は“NPS + 为 + NP1/VP + VP”である。この構造で，“为”は常に後の目的語と組み合わせ，「前置詞 + 目的語」というフレーズとして，動詞句の前に来る。例えば，

(41) 方鸿渐为掩饰斗口的痕迹，有意哈哈大笑。(《围城》)

(42) 为纪念宋凡平，李兰八年没有洗头发。(《兄弟》)

“为”が「動作の原因」と「動作の目的」のどちらを導くかを明確にするため，動詞の下位区分を用いる。“为”が「動作の目的」を導く場合，後の動詞は必ず「+自主動詞」である。「動作の原因」を導く場合，後の動詞は「-自主動詞」である。例えば，

(43) 妈妈常为小明的学习而操心。

(母はよく明ちゃんの勉強で気をもんでいる。)

(44) 人们总是为生活而不停地忙碌着。

(人々はいつも生活のためにせわしなく立ち働く。)

上の文(43)における“操心”は「+自主動詞」であるため，文は「動作の原因」を導く。また，文(44)における“忙碌”は「-自主動詞」であることから，「動作の目的」を導く。

2.2.5 「奉仕する対象」を導く

「奉仕する対象」を導く場合，基本構造は“NPS + 为 + NP1 + VP”である。この構造における NPS は人を指す名詞，あるいは代名詞である。NP1 は必ず人を指すとは限らず，物を指示することもできる。この構造が表しているのは「NPS は NP1 のために犠牲を払った，あるいは貢

献をした」ということである。したがって、この構造に入る動詞は「+奉仕」という意味特徴を持つ。例えば、

(45) 小王为考公务员付出了很多的努力。

(46) 他已经开始感觉为这一民主姿态付出代价了。(《我是你爸爸》)

2.2.6 「動作主」を導く

「動作主」を導く場合、基本構造は“NPS + 为 + NP1 + VP”である。この構造の“为”の意味は“被”と同じで、動作主を導く。NPSは受け手である。この構造はよく“所”とともに、“为……所”の型で、「受身」の意味を表す。例えば、

(47) 他的所作所为不为大家所理解。

(48) 所有人都为他的精神所感动。

2.3 “替”の意味上の役割

“替”の基本意味は「代替」である。次に、“替”の意味と用法を詳しく分析しよう。

2.3.1 「代替の対象」を導く

「代替の対象」を導く場合、基本構造は“NPS + 替 + NP1 + VP”である。この構造におけるNPSとNP1は、両方とも人を指す名詞、あるいは代名詞である。その内、NPSは「代替する者」である、NP1は「代替される者」である。VPはNPSがNP1の代わりにしたことで、それはもともとNP1がやるべきことであるけれども、NPSが行ったことになる。多くの動詞がこの構造に生起することができる。例えば、

A. 「責任」類動詞

よく見られる「責任」類動詞は次のものである、“值班，指挥，指导，

主持，坚守，考试，报告”などである。例えば，

(49) 李梅亭借酒蒙脸，说：“我来替他们报告。”（《围城》）

B. 「飲食」類動詞

よく見られる「飲食」類動詞は“吃，喝，尝，咽，吞”などである。例えば，

(50) 他便把人家的杯子拿过来：“好，我替你喝！”（《四世同堂》）

C. 「取得」類動詞，「授与」類動詞，「添加」類動詞，「身体表面情況」類動詞，「製作」類動詞

例えば，

(51) 孙小姐，你到图书室去替我借一本书。（《围城》）

(52) 家珍只得用手去替她擦头发。（《活着》）

これらの動詞は“替”構文に用いられると、「あいまい性」が生じる。なぜならば，この“替”は「代替の対象」を導くことができるだけではなく，「奉仕する対象」を導くこともできるからである。このような場合，文脈から考えないと理解できない。例えば“哥哥替爸爸看病”という文は二つの意味を持つ。つまり，

A. 兄は父の代わりに患者さんを診察する。

B. 父が病気で，兄が父を診察する。

Aの“替”は「代替の対象」を導く，“代替”に換わることができる。しかしながら，Bの“替”は「奉仕する対象」を導く，“代替”に換わることができない。

2.3.2 「利益を受ける対象」を導く

「利益を受ける対象」を導く場合，基本構造は“NPS + 替 + NP1 + VP”である。この構造における“替”は「奉仕する対象」を導き，NPSは「奉仕を提供する人物」で，NP1は「奉仕される人」である。この構造

に入れる動詞は多い。例えば、

(53) 老人告诉瑞宣：“你回家吧，我替你请半天假。”（《四世同堂》）

(54) 那回，他替我的大小子去买药，于是……（《四世同堂》）

2.3.3 「関心を持つ対象」を導く

「関心を持つ対象」を導く場合、基本構造は“NPS + 替 + NP1 + VP”である。この構造に、NPSは動作主であり、NP1は「関心を持つ対象」であり、NPSとNP1は人を指す名詞あるいは代名詞である。この構造に入る動詞は多くが「心理活動」類動詞であり、一般的に自動詞で、目的語を後続させることができない。この構造が表している意味は「NPSがNP1のためにストレスや感情を分担する」ということである。このような動詞は“高兴，自豪，骄傲，担心，着想，难为情，操心，发愁，庆幸”などである。例えば、

(55) 母亲的艰辛，使孩子们早早懂事了，他们总想替母亲分担一些家务。（《家》）

(56) 我替你们难为情，反正你们是彼此彼此。（《围城》）

2.3.4 「結果の受け手」を導く

「結果の受け手」を導く場合、基本構造は“NPS + 替 + NP1 + VP”である。この構造に、NPSは名詞、あるいは代名詞以外に、単独の文を用いるだけでもよい。この構造の意味は「NPSがある行為がNP1にある結果を持たせ、その結果はNP1に対して有利である」ことである。例えば、

(57) 女学生像苏小姐才算替中国人争面子，人又美，又是博士，这样的人哪里去找呢？（《围城》）

(58) 这是赵先生替你争取来的。跟我无关。（《围城》）

3. “给”，“为”，“替”の意味と用法に関する比較

以上の分析によると，“给”，“为”，“替”が多くの意味と用法を有しているということが分かる。次の表で明らかにする。

表 5

意味と用法	给	为	替
「渡す対象」を導く	+	－	－
「利益の受け手」を導く	+	+	+
「損害の受け手」を導く	+	－	－
「命令文」を導く	+	－	－
「動作に関係する事物」を導く	+	－	－
「動作主」を導く	+	+	
「関心を持つ対象」を導く	－	+	+
「動作発生の原因」を導く	－	+	－
「動作発生の目的」を導く	－	+	－
「奉仕する対象」を導く	－	+	－
「代替の対象」を導く	－	－	+

3.1 “给”，“为”，“替”の語用分析

3.1.1 文体上の差異

中国語には口語と書面語があり、いずれも多くの類義語が存在する。前置詞においても同様である。また前置詞は口語と書面語で生起する頻度が異なる。たとえば“给”，“为”，“替”を比較すると、多くの差異が生じる。“为”は書面語において多く使われる。“为”は文語文において用いられ、その機能が現在においても残存している。上述した“为……

所”，“为……而”はその機能の一つである。また，“为”は平叙文に多く用いられる。一方“给”と“替”は一般的に口語において用いられ，“为……所”，“为……而”のような機能を有していない。“给”は口語に多く用いられるため，様々な用法がある。たとえば“给”は後続する目的語を省略することができる。これは“为”や“替”に見られない用法である。

表 6

	给	为	替
四世同堂	1189	896	142
兄弟	61	188	5
活着	159	80	25
家	864	538	70
春	349	241	33
秋	403	212	47
围城	279	169	108

3.1.2 使用頻度の違い

上の分析から考察すると，“给”の意味特徴と用法はとても多く，かつ複雑であることが分かる。また頻度についていえば，“为”が用いられる頻度は“给”に及ばないが，“替”よりは多く用いられていると理解し得る。このことは次の表の三つ語の使用頻度の違いからわかる。

3.1.3 語気上の違い

“给”は命令文として用いられるが，通常“为”と“替”は用いられない。命令文において生起しても語気の強さは“给”に劣っている。次の例を見られたい。

(1) 你可以给／为／替我写封信吗？

(2) 给我写封信！

(1) では「請求」の意味を話者が表し、聞き手は自分が命じられた「請求」に対して応じるか否かを判断することができる。しかし、(2)においては、話者は聞き手の意思を考慮せず、「強制」の意味合いが強いということがわかる。

3.1.4 文脈上の違い

“给”，“为”，“替”は文脈により、交換したりされなかったりする。例えば“我会给你写信的。”は文脈によって異なった意味を示している。

文脈 1

A：到了国外，要注意身体啊。

B：放心吧，到了以后我会给你写信的。

この会話における“给”は「渡す対象」を導いている。「あなた」は「手紙」の受け手である。この文脈では“为”と“替”は生起することはできない。

文脈 2

A：我的汉语还不太好，我该怎么把这件事通知给我的中国朋友呢？

B：别担心，我会给你写信的。

ここで用いる“给”はAの場合とは大きく異なり、ここの“给”は「奉仕する対象」を導いている。つまり、「あなた」は「奉仕する対象」である。また、「私」は「奉仕を提供する人」であり、手紙の受け手は「あなた」ではなく、「私の中国人の友達」である。この“给”は“为”と“替”に替えることができる。

3.2 “给”，“为”，“替”の代替状況

3.2.1 “给”，“为”，“替”が自由に代替できる状況。

“给”，“为”，“替”はそれぞれ「利益の受け手」を導くことができるが、全ての場合において可能というわけではない。多くの例文から考察すると，“给”，“为”，“替”が「操作」類動詞と共起する時，代替が可能であることが分かる。次の例を見られたい。“预定”が「操作」類動詞である。

(3) 我到北京出差，他们给／为／替我预定好了宾馆。

(私が北京に出張しに行くと，彼らが私のためにホテルを予約してくれた。)

“给”，“为”，“替”が「添加」類動詞とともに使われる時はどれも生起できる。次の例を見られたい。

(4) 李老师给／为／替学校购进了很多书籍。(李先生は学校のためにたくさんの本を購入した。)

次は「添加」類動詞とともに使う時に代替することができない例である。

(5) 小王给电脑安装软件。(王さんがパソコンにソフトをインストールする。)

「奉仕する対象」を導くと，「利益」が「ある結果」に代わる場合があり，また「損害になる結果」になる時は“给”しか生起し得ない。たとえば，

(6) 这种教育方法给孩子造成了很大的压力。

(この教育方法は子供に多くのストレスを与えた。)

この文に含まれる命題内容は，「この教育方法が子供に何かをする」，「教育方法がストレスを与える」，「ストレスが子供のところに至る」である。もう一つ同じ例を見てみよう。

(7) 他的行为给别人留下了不好的印象。(彼の行いは他人に悪いイメー

ジを与えた。)

この文は「彼の行いが他人に何かをする」と、「行いがイメージを与える」と「イメージが悪いという性質をもつ」と、「イメージが他人に至る」という四つの命題を含んでいる。このことを考慮して述語論理で表すと次のようになる。

～ニ

(7) 給' {他的行為, 別人, 留下' (行為, 印象) & -有' (印象, 好) & 到' (印象, 別人)}

スル ～ガ ～ニ

～コトヲ

この論理式において, “給' {他的行為, 別人, ……” は「彼の行いが他人に何かをする」という意味を, “留下' (行為, 印象)” が「行いがイメージを与える」という意味を, “-有' (印象, 好)” が「イメージが良いという性質をもたない」という意味を, そして “到' (印象, 別人)” が「イメージが他人に至る」という意を示している。ここでの “留下' (行為, 印象) & -有' (印象, 好)” は「損害になる結果」という意味を表す複合命題である。従って, “給” しか生起し得ない。

3.2.2 “为” しか生起し得ない場合

3.2.2.1 「動作の原因」を導く場合

「動作の原因」は“为”を用いて表し, “给”と“替”はこれに替わることができない。たとえば次の例を考察されたい。

(8) 方鸿渐整天为这事惶恐不安, 向苏小姐谢了又谢。《围城》

この文における心理活動は“惶恐不安”であり, “这事”は「動作の原因」である。この場合“为”しか用いることができない。

3.2.2.2 「奉仕する」対象を導く場合

“为”と共起する動詞が「奉仕する」という意味がある時, “为”のみ

が生起し得る。次の例を見られたい。

(9) 他为妻子牺牲了很多。(彼は妻のために多くの犠牲を払った。)

3.2.3 “给”しか生起できない場合

3.2.3.1「損害の受け手」を導く場合

これは 2.2.1.3 で述べたので、ここでは改めて論じない。

3.2.3.2「動作の方向」を導く場合

“给”が「動作の方向」を導くことができる。たとえば

(10) 他给母亲使了个颜色。(彼は母に目配せをした。)

この文における動詞は「方向性」を有し、その方向は「母の所」である。

この時は“给”しか生起し得ない。

3.2.3.3 “V 给”構造

“给”は動詞に後続できるが、“为”と“替”は動詞の前にだけ置かれる。次の例、およびその論理式を見られたい。

(11) 他送给我一个礼物。(彼は私にプレゼントを贈った。)

～ニ

(11') 给' {他, 我, 送' (他, 礼物) & 到' (礼物, 我)}

スル ～ガ ～ニ

～コトヲ

ここの式は“给' {他, 我, ……}”が「彼が私に何かをする」という意を, “送' (他, 礼物)”が「彼がプレゼントを贈る」という意を, “到' (礼物, 我)”が「プレゼントが私の所に至る」という意を示している。

4.2.3.4「渡す対象」を導く場合

“给”が「授与」類動詞, 「製作」類動詞と共起する時, 「渡す対象」が導かれる。しかし, この場合, “为”或いは, “替”に変換すると文の意味が変化する。次の例を見られたい。

(12) 我们不能经常见面, 所以他经常给我写信。

(私たちは普段会えないので、彼はよく私に手紙を書いてくれる。)

ここでの“给”は“为”または“替”を用いることもできるが、その際は文の意味が変化する。つまり、導く対象は「渡す」ではなく、「奉仕する」対象へと変わるのである。また、“给”が「実物の受け手」を導く場合、“给”に後続する目的語は文末に移動することができる。“为”、“替”にはそのような用法がない。次の例をみられたい。

(13) 我给你买了一本书。

(13') 我买了一本书给你。

(13'') *我买了一本书为／替你。

3.2.3.5 “给”の導く対象を省略することができる場合

“给”は後続する対象を省略することができるが、“为”或いは、“替”はそのような用法が存在しない。たとえば、

(14) 你给他出个主意吧。(君は彼にアドバイスしてください。)

この文における目的語“他”は省略できる。しかし、“为”と“替”が生起する文で目的語が省略されると、文は成立しない。

(14'') 你替／为他出个主意吧。

(14''') *你替／为出个主意吧。

3.2.4 “为”と“替”が交換できる場合。

「関心を持つ対象」を導く場合、“为”或いは、“替”が用いられ、“给”は使用することができない。次の例を見られたい。

(15) 我们都为／替他惋惜。(私たちは彼に対して惜しんだ)

ここで注意すべき点は、“惋惜”のように「心理活動」類の動詞を導く時、“替”に交換することができないということである。たとえば、

(16) 你不要为这种事操心(あなたはこの事で心配しないでください。)

(16') *你不要替这种事操心。

この文の“为”は「動作の対象」と「動作の原因」を導き，“因为”という意味を有している。従って，“替”は生起することができない。“为”の目的語は出来事を指し，もし人称代名詞であれば，“替”を使うことができる。

(17) 你不要为我操心。

你不要替我操心。

3.2.5 “给”と“为”が交換できる場合

“给”と“为”は「心理活動」の「原因」の意味を表すことができるが，“替”にはこのような用法がない。次の例を見られたい。

(18) 她给这件事弄得心情很不好。(彼女はこの事で気分を悪くした。)

4. まとめ

本文では，前置詞として用いられる“给”とその類義語“为”，“替”の意味と用法を詳しく論じた。そのうち，“给”の意味と用法が一番多く，特に「あいまい性」を生じる場合，“为”と“替”に変換できることがわかった。

詳しく言えば，“给”は「渡す相手」を導く，「利益の受け手」を導く，「損害の受け手」を導く，「“给我”＋動詞」で命令文を形成，「動作に関係する事物」を導く，「動作主」を導くという六つの用法があり，その中で，「利益の受け手」を導く場合，文における動詞が「操作」類動詞と「添加」類動詞二類に分けられる。「“给我”＋動詞」で形成する命令文では，「話者の請求」あるいは「話者の強い意志」の二つ意味を表すことができる。

“为”には動詞と前置詞という二つ品詞がある。動詞として使われる

場合、第二声で発音され、“作”と“做”の意味である。例えば、“事在人为”（事の成否は人のやり方いかんで決まる），“敢作敢为”（恐れずに思い切って事を行う）である。前置詞として用いられると、第四声で発音する。前置詞の“为”は多くの機能を有する。つまり、「利益の受け手」を導く、「関心を持つ対象」を導く、「動作発生の原因」を導く、「動作発生の目的」を導く、「奉仕する対象」を導く、「動作主」を導くという六つの用法がある。

“替”の基本意味は「代替」である。“替”の意味と用法は前に述べた“给”と“为”より少ない。つまり、「代替の対象」を導く、「利益を受ける対象」を導く、「関心を持つ対象」を導く、「結果の受け手」を導くという四つの用法がある。その中、「代替の対象」を導く用法が一番よく使われている。「代替の対象」を導く場合、動詞は「責任」類動詞、「飲食」類動詞、「取得」類動詞、「授与」類動詞、「添加」類動詞、「身体表面状況」類動詞、「製作」類動詞などの動詞を用いることができる。

そして、“给”，“为”，“替”の語用論的分析を行った。

具体的に言えば、文体上の差異について，“给”と“替”は一般的に口語において用いられるが，“为”は書面語において多く使われる。“为”は文語文において用いられ、その機能は現在においても残存している。上述した“为……所”，“为……而”である。一方，“给”と“替”はそのような用法を持たない。さらに，“给”は後続する目的語を省略することができる。これは“为”や“替”には見られない用法である。

使用頻度の差異に関して、現代小説に出現した“给”，“为”，“替”を統計処理した。使用頻度についていえば，“为”が用いられる頻度は“给”に及ばないが，“替”よりは多く用いられている。

語気上の違いは，“给”は命令文として用いられるが、通常“为”と“替”はもちいられない。たとえ命令文において生起しても語気の強さ

は“给”に劣っている。

参考文献

- [1] 陈伟琳 1999 由介词“为”的兼容用法引发的思考,《华中师范大学学报》第5期。
- [2] 陈昌来 2002 现代汉语介词的内部差异及其影响,《上海师范大学学报》第5期,15-18页。
- [3] 丛琳 2001 “给+NP”中NP的语义范畴,《北京教育学院学报》第3期,2-4页。
- [4] 傅雨贤,周小兵 1997《现代汉语介词研究》,中山大学出版社。
- [5] 洪波 2004 “给”字的语法化,《南开语言学刊》第2期,18-21页。
- [6] 侯学超 1998《现代汉语虚词词典》,北京大学出版社。
- [7] 胡竹安 1960 动词后的“给”的词性和双宾语问题,《中国语文》第5期,66-68页。
- [8] 刘月华 2001 改定版《实用现代汉语语法》,商务印书馆。
- [9] 吕叔湘 1984 汉语语法分析问题,《汉语语法论文集》北京:商务印书馆,50-53页。
- [10] 马庆株 1983 现代汉语的双宾语构造,《语言学论丛》第10辑,166-196页。
- [11] 满在江 2003 生成语法理论与汉语双宾语结构,《现代外语》第3期,232-240页。
- [12] 齐沪扬 1995 有关介词“给”的支配成份省略的问题,《上海师范大学学报》第4期,18-23页。
- [13] 刑意和 2005 对外汉语教学中介词教学(硕士学位论文)天津大学。
- [14] 徐丹 1992 北京话中的语法标记词“给”,《方言》第1期,54-60页。
- [15] 徐峰 2002 现代汉语三价动词探索,《汉语配价分析与实践》,371-384页。
- [16] 朱德熙 1982《语法讲义》,商务印书馆。
- [17] 延俊荣 2005 “给予”双宾式和与格式共存的动因,《语文研究》第4期,26-37页。
- [18] 杨宁 1986 三价动词及其句型,复旦大学硕士论文。
- [19] 杨欣安 1960 说“给”,《中国语文》第2期,66-68页。
- [20] 袁明军 1997 与“给”字句相关的句法语义问题,《语言研究论丛》第7辑,北京:语文出版社,34-40页。
- [21] 张伯江 1999 现代汉语的双及物结构式,《中国语文》第3期,175-184页。